

1. 資料の目的

過年度の検討経緯を示すので、必要であれば提案書作成の参考とすること。

2. 内容

市では、令和4年1月に策定した「本庄駅北口周辺整備基本計画」（以下、「基本計画」という。）に基づき、本庄駅北口駅前街区の整備と周辺道路の整備を柱とし、本庄駅北口周辺のまちなか再生を目指している。

現在、「基本計画」策定から3年が経過し、計画内容の具現化に向けた取組に成果が見え始めてきた。さらに、北口周辺のまちなかでは、官民間わず、様々な主体による取組が展開している状況にある今、エリア全体で一体感のある空間形成を目指すために、同エリアを包括する将来像を具体化し、官民で共有することが急務となっている。

このため、各取組の進捗状況、まちなかの新たな動きや社会情勢の変化などを踏まえ、市の喫緊の課題である「本庄駅北口周辺のまちなか再生」に向けた各取組を調査検証するとともに、まちづくりの方向性を再度整理し、より明確な将来像を検討するものとする。そして、その結果を踏まえ、エリア内の取組が相互に連携し、さらには新たな価値を生み出し続ける、戦略的なまちづくりを目指す「本庄駅北口周辺まちなか再生方針」案として取りまとめることを目的とする。

なお、過年度の業務の検討結果については、本庄市役所市街地整備室にて閲覧可能とするので、希望があれば募集要項「16. 書類等提出及び問合せ先」まで連絡すること。

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
道 路	業務名	本庄駅北口周辺まちなかウォーカブル推進調査業務委託	本庄駅北口周辺まちなかウォーカブルエリア等検討業務委託	本庄駅北口周辺まちなか道路空間等利活用検討業務委託
	内容	●銀座通り・三交通り・駅西通り（以下「3路線」という。→「基本計画」上のウォーカブル推進道路）の現状把握と課題整理 ●ウォーカブル推進に向けた3路線の活用方法等の提案 ●社会実験の実施（マーケット会場を活用し、3路線の特長（居心地の良さ）を検証）	●適正な「歩車共存」を見据えた空間配分の検証（「車社会」からの完全なる脱却が現実的ではない実情を踏まえた検証） ●社会実験の実施（車両通行を規制した道路でのマーケット会場を「歩行空間（人のための空間）」が拡張したまちなかと想定し、人々の居心地の良さや活動内容を検証）	●地区概況と課題の整理（道路状況、交通状況等の分析による現状と課題の整理） ●ウォーカブル推進に向けた基本方針の検討 ●地元商店街へのアンケート調査の実施 ●歩車共存を見据えた道路整備方針の検討
	成果	●3路線の現状・課題の把握 ●銀座通りの優位性・有効性の認識（北口周辺のまちなか再生に向けた中心的道路としての位置付け） ●銀座通りが抱える「歩行者の安全性」の課題認識 ●道路空間の適正配分の必要性認識	●歩行空間（人のための空間）がまちなかや人に与える影響の把握（人々の交流や滞留を促進） ●「安全性」と「まちなかでの居心地の良さ」の関係性の認識（両者の間に認められた因果関係の可能性） ●本庄駅北口周辺のまちなか再生に向けた課題として「安全性の向上」を認識（優先的に解決すべき課題と認識）	●銀座通りの道路規模と車両交通量の不均衡の判明（道路規模に適合しない交通量の多さ） ●銀座通りの「歩行空間の改善」や「滞留空間の創出」を求める地元意見の認識（地元商店街へのアンケート結果より） ●「車の通行機能」のみならず、「人の通行と滞留機能」の向上にも焦点を当てた道路整備方針の提案